



違いは何？ よく似た生き物たち

よく似た生き物の違いは何？ 今回はそんなお話です。
■フクロウとミミズク：フクロウ目フクロウ科のうち、頭に飛び出た羽根＝羽角（うかく）あるものが「ミミズク」、ないものが「フクロウ」と古くからいわれてきました。

しかし、シマフクロウ(右写真左)のように羽角があるフクロウもいれば、アオバズク(同右)のように羽角がないミミズクもいて、この分け方は絶対的なものではありません。

■ワシとタカ：タカ目タカ科のうち、大型種がワシ、中～小型種がタカというのは概ねその通りです。

しかし、日本最小のワシのカンムリワシは、最大のタカのクマタカより小さいといった例外もあります。

タカ科のトビはワシでもタカでもなく「トビ（とんび）」として昔から親しまれており、ノスリ、チュウヒ、ハチクマ、ツミなどは一般的にはタカの仲間として括られます。

ミサゴはかつてタカ科に含まれていましたが、今は独立したタカ目ミサゴ科に分類されています。

コンドルはタカ目で近縁ですが、ハヤブサ類はハヤブサ目で系統がまったく違います。

■ツバメとアマツバメ：ツバメ類はスズメ目ツバメ科、アマツバメ類はアマツバメ目アマツバメ科で、まったく系統が違う生き物ですが、外見が驚くほどよく似ています。

進化の過程で同じ環境に適応した違う系統の生き物の形が似てくる現象を「収斂（しゅうれん）進化」といい、ツバメとアマツバメはその例としてよく取り上げられます。

■オウムとインコ：オウム目のうちオウム科のものがオウム、インコ科のものがインコですが、外見にも違いがあって、オウムには冠羽があり、インコは冠羽がなく体の羽根が緑色基調です。

ただ、オカメインコはインコと名がつくものの冠羽があって実はオウム科の世界最小の種であったり、緑色がないコンゴウインコの仲間がいたり、セキセイインコは品種改良され緑色がないものも多かったり、インコ科なのにオウムのような名前でも緑色がないヨウムなど、例外もあります。

■クジラとイルカ：鯨偶蹄目（ウシ目）のいわゆる「鯨類」のうち、大型種がクジラ、中～小型種がイルカですが、ワシとタカ同様に慣例的なもので、分類学・生物学的には同じ仲間です。

しかしここにも、シャチやイッカクなど、クジラともイルカとも呼ばれない種もあります。

■カンガルーとワラビー：分類学的には同じカンガルー科で、大型種がカンガルー“kangaroo”、小型種がワラビー“wallaby”、中間のものはワラルー“wallaroo”と呼ばれています。

顔が笑っているように見えるクオッカはクアッカワラビーというワラビーの1種です。

■チョウとガ：チョウ（鱗翅）目のうち、アゲハチョウ科、シジミチョウ科、シロチョウ科、セセリチョウ科とタテハチョウ科のものがチョウ、それ以外はガに分類されます。

チョウの仲間は触覚がバトン型ですが、ガの仲間は多種多様です。

チョウは昼行性であるのに対し、ガは多くが夜行性ですが昼行性のものもあります。

また、翅を閉じてとまるのがチョウ、開くのがガ、体が太いのがガともいわれますが、例外は多いです。



触覚がバトン型のクロヒカゲ（チョウ）



触覚がクシ状のオオミズアオ（ガ）

■パンジーとビオラ：分類的にはスミレ科の同じ属の植物で、花の大きさが5cm以上ならパンジー、4cm以下ならビオラと呼ばれていますが、近年ハイブリッド種も作出されています。

パンジーは大きな花が1輪咲き、ビオラは小さな花がいくつか咲くのが特徴です。

レストハウス「ぼるく」は2024年4月12日(金曜日)オープンです！

旭山野鳥メモ 60 ベニマシコ

ベニマシコ Long-tailed Rosefinch *Uragus sibiricus* スズメ目アトリ科
北海道と東北の一部で繁殖する夏鳥、関東以西で冬鳥。

♂(写真上)は赤ら顔に「白髪白髭」の「猿子(ましこ)」らしい顔つき。

♀(下)は褐色で赤みはない。どちらも翼に入る2本の白い帯が目立つ。

旭山では春と秋にそれぞれ半月ほど見られるが、河川湖沼の近くの草地や湿原など開けた場所で繁殖し、旭山など山林では繁殖しない。

なぜ春と秋を旭山など山で過ごすのかは分からないが、他に同様の動きをする野鳥が見当たらず、興味深いことではある。

札幌では茨戸川緑地や屯田遊水地で夏の間見られる。富良野美瑛の畑作地帯で多く見られる。英名のごとく長い尾が特徴。

「ピッ ポッ」と音程を変えた2音の地鳴きは分かりやすく識別ポイントになる。「ピッ」だけ聞こえてもそのうち必ず「ピッ ポッ」と鳴くので分かる。

囀りは朗らかな声でなんとなく長く鳴いている感じで、あまり囀らず、旭山ではめったに聞かれない。

旭山で見られるのは開けた場所中心。柔らかな音色の「ピッ ポッ」という鳴き声を頼りに、「草原のアイドル」の姿を旭山でも探してみよう。



2024年4月の野鳥トピックス

旭山記念公園では、シマエナガの巣についての情報にはお答えしておりません。スタッフ等が巣を探すこともしていません。巣を探さないよう、そしてもし偶然シマエナガの巣を見つけてしまった場合、すぐにその場を立ち去り、以降そこには近寄らないようお願いいたします。

他の野鳥も巣の情報は公開していません(人に影響を及ぼす可能性のあるハシブトガラスは除く)

- シマエナガ：営巣時期に入り群れでは見られなくなりました
- ホオジロ：展望台周辺で囀りし時々地面に降りています
- ヤマシギ：笹のある地面から急に飛び出して驚かされることも
- クイタダキ：例年4月は観察機会が多くなります
- ウソ(写真♀)：ほぼ毎日見られており、5月上旬まで見られるかも
- キバシリ：例年4月中旬には見られなくなりました
- ミソサザイ：時々見られ囀りしていることもあります
- カケス(亜種ミヤマカケス)：例年4月中旬には見られなくなりますが、今冬は多く見られました
- クマゲラ：園内に時々やって来ています ●ヤマゲラ：そろそろ観察機会が多くなる頃です



夏鳥初認日一覧

いよいよ春！ 夏鳥が南から渡って来る、野鳥好きには1年で最も楽しい時期になりました。

旭山で見られる夏鳥の平均的な初認日をまとめました(赤字は2024年到来済みの初認日)

- ヤマシギ：3月30日 ●ホオジロ：3月31日 ●キジバト：3月31日
- モズ：3月31日 ●ベニマシコ：4月4日 ●キセキレイ：4月9日
- トラツグミ：4月11日 ●ルリビタキ：4月11日 ●ウグイス：4月12日
- アオジ(写真)：4月16日 ●メジロ：4月19日 ●クロツグミ：4月20日
- アカハラ：4月23日 ●ヤブサメ：4月23日 ●オオルリ：4月27日
- センダイムシクイ：4月27日 ●ビンズイ：4月27日
- コマドリ：4月29日 ●コルリ：4月30日 ●チゴハヤブサ：5月1日
- エゾムシクイ：5月1日 ●キビタキ：5月4日 ●ツツドリ：5月4日 ●コサメビタキ：5月7日
- アオバト：5月15日 ●ハリオアマツバメ：5月20日 ●オオムシクイ：5月29日



公式サイト

「アカゲラ通信」 第126号 2024(令和6)年4月3日発行

(公財)札幌市公園緑化協会 旭山記念公園管理事務所

<https://www.sapporo-park.or.jp/asahiya/> 〒064-0943 北海道札幌市中央区界川4丁目

電話 011-200-0311(金・土・日・祝日 10時~16時) FAX 011-200-0351